



REGGIO CALABRIA 198

FROM THIS

THIS DANGEROUS BEGINNING

REGGIO CALABRIA...

The Year of Three

Ferdinando Frega

GILLETTE：3の年 — 第1幕

あの年から33年が過ぎた。3は、私の人生に、私という人間に、私のすること、私の存在そのものに織り込まれた数だ—そしてそれを十分に理解するには、60年待たねばならなかった。20の3倍、ひとつの三角測量。祈りのように、三角形のように、母なるGilletteの3枚刃のように。

3という数。派生した数ではない—素数だ。それは一度に3つのことを意味する。人間の完全性を。

あれは、私が結婚を決め、私ひとりのためにあつらえられた会社の辞令を受け、フリーメイソンへの入会儀礼を受け入れ、子どもたちの誕生に立ち会い、同僚たちの3倍の利益を手にし、プラス33パーセントという伸び幅で職業人として成熟した年だった。

額に入れて飾るに値する1年—そう言うのは今日、33年を経た私だ。

それはまた、ラドヤード・キプリングのジャングル・ブックと初めて真剣に出会った年でもあり、続いてもし—と出会った年でもあった。息子が若くして死んだあと、その子に宛てて書かれた詩だ。

深く心を動かされた。ひとりの男として、父として、フリーメイソンとして。それからの私の人生は、もう以前とまったく同じではなかった。

ラドヤード・キプリング—作家、詩人、フリーメイソン、ジャーナリスト。1865年、インドに生まれた。私のちょうど100年前だ。世を去って、もう90年になる。

今日の私は、私の家族にすべてを与えてくれた会社の舵を握るインド系の男が、どんな決断を下すのかを見守っている。

彼もまたもし—を読んでいることを、心から願う。

ようこそ、社長。あなたは私の社長でもある—私の母の守り手なのだから。そのことには、ただ感謝するほかない。

フェルディナンド